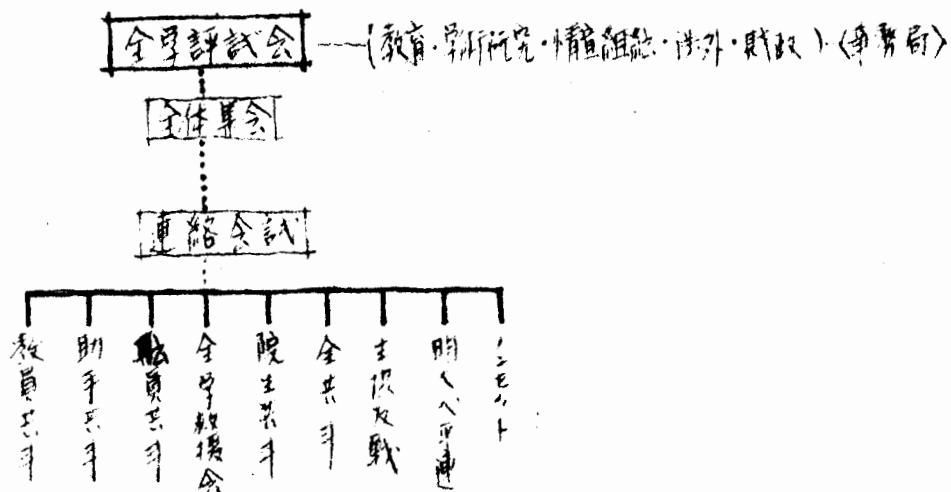


▶ 全學評議會運動の割出に向ける ◀

1969.11.27.

1. 全學評議會の構造



2. 当面の斗争目標

1. 全學討論集会の獲得。（既成小組織による東北小組、諸組織の混成部隊の割出）
2. 緊緊拒否斗争（助教員の争いの中核に近づく、割出・教職組分解の走向）
山本以外（一時金要求斗争を契機）
3. 早期未試験の阻止斗争（前期後期、学期未試験、粉粹）
4. 入試阻止斗争・準備（思想的位置づけ問題、行動蜂起、準備……）
5. 改革案に対する根柢的批判（行動式の討決案、明確化）
6. 学生会・教職組・止揚（学公自論会、否定、教職員組合、否定、全學共斗、割出）
7. カクル活動・止揚→乃文削・止揚（課外活動による体制内大学知識伝達の補完物との位置づけ、否定、乃文削、否定）
8. 当面と混成部隊の固め安堵の獲得

3. 全學評議會への加入原則と運営原則

全學評議會、事務局本部は、現在、公平運事務局の形態をとる。

全學評議會へ、参加者は個人・グループの如何を問わざいか、形式的にも會員制をとる。
 二、會員制は、会員費を最小限維持するため、会員権収取と保障は外に該げ子細にてあり、会の活動一般についても、会員が拘束を受けること無事いか、非立憲主義の加入を認めない。
 会の全般的運営は、直接民主主義の形式を採用する。

→ 最近、室内情況と斗争の最小限スケジュール ◀

